

I 「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した（私達も、神によって造られ、命を与えられ、神によって、罪の世、罪の奴隷状態から救い出された）、あなたの神、主である。…あなたは、自分のために、偶像（人間が造った神の像）を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。…わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである」

（出エジプト記20：2-6）。

1. 私達を造り、命を与え、罪から救い出された真の神の先行する恵み、愛を忘れてはいけない。常に神の恵みが先にある。
2. この真の神（すべての創造主、悪魔、罪、永遠の死からの救い主）の他に、偽りものの神々があってはならない。
3. 「自分のために」出20：4＝偶像とは、自分の願望や欲望の具現化。偶像とは自己礼拝の表現。神の為に生きるのではなく、神を自分の為に利用する心。
4. 「偶像（神の像）を造ってはならない」＝色々な偽物の神の像はもちろんの事、真の神の像も造ってはならない。なぜなら、神は霊であり（ヨハネ4：24、形や場所に制限されないお方、偏在、不変、人格をお持ちの方）、偉大な方なので、人間が勝手なイメージをもって偉大な神を間違った形にしたり、閉じ込めてはいけない。

※似顔絵の譬え。

もし主なる神の像を造るなら、人々はその像を見て、真の神はこういうお方だと思い込んでしまう。人が造る偶像は、神の栄光、ご性質の素晴らしさを傷つける。

主イエスの像、描かれた顔にも気を付けたい。その像や絵は、その作者の持っているイメージ、想像。

主イエスは、御言葉は残されたが、ご自身の顔は、残るようにはされなかった。

66巻の聖書の御言葉で、正しい神観を持ちつつ神を礼拝する事が大切。偉大な神は、限界ある人間が像や形で表す事が出来ない偉大なお方。

「この世界とそこの中にあるものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません（何と！主を信じる私達の心に住んで下さる！）。…神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです」（使徒17：24-25）。

5. 偶像は、私たち人間を誤りに導く。偶像は、真の神について誤った考えを与える。偶像は、神を不適切に表現し、神に対する考えを歪める。神の御言葉ではなく、人間の語る言葉に頼らせる。支配されて行く占いにも気を付けたい。

「占いをする者、^{ほくしゅ}卜者（占い師）、まじない師、呪術者、呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死人に伺いを立てる者があってはならない。これらのことを行う者はみな、主が忌みきらわれるからである」（申命記18：10-12）。

占い＝未来の出来事や隠された事を言う。人の信じやすい心境を悪用し未来の事をまことしやかに語り、神の全知の領域を侵す罪。人々は、占いの言葉に支配され縛られる。字画数や方角にも支配されてはならない。占いをする人を神のように崇める人も起こる。人間が神＝偶像となってしまう。

逆に、真の神の御言葉は、私達に、真の神の御性質と御心を教え、私達を正しく導き、養い育てて下さる。

II 「不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者（貪欲な者、欲の深い者）—これが偶像礼拝者です、—こういう人（自分の罪を悔い改めない人、主を信じない人）はだれも、キリストと神との御国を相続することができま

せん」(エペソ5：5)。

不品行や汚れやむさぼり(受けても満足せず欲しがる心。十戒の最後の戒め。むさぼり。心の中の罪。

「あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、…牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない」出20：17)の罪も、すべては自己中心で自分の欲望を主人、偶像としている。真の神にではなく、自分の欲望に仕えているので、その罪に仕えている者は、偶像礼拝者。

偶像(原語：エイドーロン。英語＝アイドル)とは、真の神より愛し、心が占領され、大切にしているもの、心が占められ仕えているもの。

「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。…あなたがたは、神にも仕え、また富(むさぼりの対象)にも仕えるということはできません」(マタイ6：24)。

Ⅲ「むなしいことばに、だまされてはいけません」：6。

性や富について罪の世に影響されてはいけない。神がたいせつなものとして与えておられる性を乱用する事や安易に富を増やすPRに惑わされないように祈りたい。

カジノやギャンブル(これらが神より執着する偶像になる)に縛られないように祈りたい。

※依存症対策と共にそれらが推進されるのはおかしい!

「金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛する(すべての与え主の神よりも愛する)ことが、あらゆる悪の根だからです」(Iテモテ6：9, 10)。

Ⅳ「こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです」：6。

神は、すべてを見、知り、正しくさばかれる。他人事ではなく、自分自身が不品行、汚れ、むさぼりから聖められ続けるように祈りたい。信頼できる人に打ち明け祈ってもらいたい。

Ⅴ「ですから、彼らの仲間になってはいけません」：7。

不品行、汚れ、むさぼる者の仲間(罪を共にする仲間)になるのではなく、もっと積極的な神に喜ばれる生き方がある!

父・子・聖霊なる三位一体の神の交わりに入れられ(Iヨハネ1：3、マタイ28：19、IIコリント13：13)、主の弟子であるキリスト者の仲間になり、偶像の神ではなく、真の神を礼拝し賛美し、互いに愛し合い赦し合い、祈り合う交わりが主の教会にある!

「神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった」(使徒2：47)。